

子育てに厳しい日本！

赤堀 薫里【CFP®】

「かわいい笑顔ね～！ 何カ月なの？」

よく笑う葵伊は、お出かけすると必ずとっていかけてもらえます。核家族の新米ママにとって、知らない人から話しかけられるときは元気を注入してもらえる瞬間です。赤ちゃんとお出かけは想像以上にハードルが高く、十分な気合いが必要です。まずはおむつ交換と授乳の場所、そしてタイミングの確認が最重要課題。葵伊とお出かけをしてわかったことですが、意外にも公共施設よりも民間のショッピングセンターのほうが赤ちゃんにとってやさしい造りになっていることに驚きました。

ショッピングセンターは、親子連れを想定したきめ細やかな配慮をしているようです。消費者としては本当に助かり、その姿勢はおのずと企業のイメージアップにもつながります。取り扱っている商品の価格に多少差が生じていても、赤ちゃんにやさしいお店へ自然と足が向いてしまいます。逆に巨大ショッピングセンターでありながら目先の利益に走り、売り場面積に力を注ぎ赤ちゃんへのスペースは極力取りたくない！という無言の会社方針が伝わってくると、いくらIRで環境問題をうたっていても眉唾物じゃない？と勘繰りたくなります。

先日、横浜元町商店街で民間団体と企業と市がコラボレートした画期的な取り組みが新聞で紹介されていました。授乳・オムツ替え専用バスが歩行者天国の時間帯に商店街に設置されたとのこと。しかもこのバスには保育ボランティアのスタッフも常駐して、簡単な育児相談にもものってくれるという心憎いサービス付き。親子でゆっくり商店街のお買い物を楽しむことができるなんて、思わず近辺に移住を考えてしまいました。

ベビーカーを押してみても気づいたことですが、交通機関でバリアフリーになっていない場所が多々あります。通路のちょっとした段差や、エレベーターなどの設置の有無に疑問がわきました。誰もが自由に繰り出せる街作りを心から願ってしまいます。

またメンタル面での希望もあります。赤ちゃんは泣くのが仕事！泣いているからといって冷たい目で見ないでほしいと思います。自分も赤ちゃん時代があったことを、泣いている赤ちゃんに昔の自分を重ねてくれると新米ママは助かります。

最後に公的機関へ一言！先日、里帰りをしていただけ使用できなかった妊婦検診の未使用分の助成金の請求に、区役所へ行ってきました。私の住む区では、通常14回分の妊婦検診までは助成金が出ます。私は7回使用した後里帰りをしたため、残りの7回分は未使用でした。里帰り時に受診をした7回分の費用は、申請をすれば1回の受診につき5000円の上限のもと助成金があります。私にとって3万5000円はありがたい存在ですが、この助成金は妊婦検診受診日から1年以内に手続きをしないと権利は消滅してしまいます。

私がこの制度を知ったのは自分が住む区のHPを確認したからですが、母子手帳を交付する際に説明するなど、区からのインフォメーションがあっさりしているべきでしょう。知らなければ申請せず期限切れとなり、権利が消滅するのでは少し冷たい気がします。利用する側に立った制度作りをお願いします。それとともに、私たちは税金を徴収されているのですから、自分が享受できるサービスは何があるのか、常にアンテナを高くして自ら情報を取りに行く姿勢も必要なようです。

思い出は大切な財産！

赤堀 薫里【CFP®】

しとしと降り注ぐ雨のなか、駐車場の片隅に薄紫色の紫陽花がたたずんでいました。梅雨入り宣言を控えたこの時期は湿度も高く、洗濯物がなかなか乾きません。新米ママには頭の痛い季節の到来です。

そんなママをよそに息子はすくすくと育っていきます。葵伊はめでたく首もすわり、5月末には生後100日を迎えたお祝いにお食い初めを行いました。主人の母から送ってもらったお食い初め用の器は、おじいちゃんそしてお父さんが使用した記念すべき年季が入ったもの。すでに他界したおじいちゃんも一緒にお祝いしてくれている気がしました。ママは、この器に彩りを添えるお赤飯や鯛、山の幸と海の幸などの用意をしなくてはなりません。

初めてのお赤飯も意外と上手に炊きあがり、鮮魚コーナーではお財布と相談しながら鯛を購入し、何とか家族3人で迎えたお食い初め。葵伊が一生食べ物に困らないように願いながら食べるまねだけさせて、実際に胃袋に納めたのはパパとママでした。

日に日にお兄ちゃん顔になっていく葵伊を見せたいのと、数十年間育ててもらった両親へたまにはお礼をしよう！と思いたち、それぞれの両親と3カ月の葵伊とともに、初めての旅行に出かけることにしました。

着替えとオムツで山のような荷物で出かけた2泊3日の珍道中。向かった先は山中湖畔のホテルです。静岡・大阪・東京組が現地で落ち合ったのは午後3時ごろ。あいにくの雨模様でしたが、2万坪のお庭を眺めながらいただいたウェルカムのお抹茶はとてもおいしかった。

でも、そこでお茶の先生でもある主人の母の横で失態を演じた私。お茶席で初めに運ばれてきた季節

の生菓子は、幾重にもきれいな色の層が織り成す、目にも鮮やかな紫陽花をモチーフにしたもの。思わず「わ～、きれい！」と感嘆の声をあげ、黒文字でいただいたこうした瞬間、おむすびころりんのごとく畳の中央へお懐紙から転がりだすお菓子。私も母もただ笑うしかありません。葵伊がもう少し大きくなったら、親子で義母にお抹茶を教えていただく決意を胸に抱いたのでした。

こんな具合に時折出してしまう自分のボケに冷や汗をかきながら、始終会話と笑顔が絶えない楽しい旅もあっという間に終わりました。洗濯物の山というお土産つきでしたが……。お互いに健康でないと実現しない旅ができたことにも感謝しながら、思い出というプレゼントができてよかったと思っています。本当に喜んでくれた両親の笑顔を次回も見るができるよう、働く目標がまた一つ増えた新米夫婦でした。

つくづく思ったことですが、お金という存在はあくまでも気持ちを運ぶツールであり、お金そのものだけに意味がある存在ではないと感じました。

私の両親は、相続税対策をするほどの財産を私たちに残していませんが、3姉妹が争続という字のごとくもめる財産も残さず、夫婦二人で生前にできるだけ使い切るつもりようです。その代わりに、毎年3姉妹それぞれの家族と一緒に旅行へ連れて行ってくれます。私たちに思い出という財産をプレゼントしてくれているのです。これは受け取る側の価値観にもよりますが、お金では換算できません。私もこれから大きく成長していく葵伊と、思い出という財産をともに増やし続けていけたらいいなと思いつつ今日も一日がんばります。

子どもが変えるお金の使い方！

赤堀 薫里【CFP®】

「痛い！」右側の腰からお尻への鈍痛と、右側下半身とつま先の痺れ。生まれて初めての自分の身体の異変に驚き整形外科へいったところ、診断は軽いヘルニア。肩こり腰痛は、新米ママの職業病でもあり、ママ友も皆悩まされていました。

出産で骨盤がゆるんでしまうことが、腰痛の原因のひとつのようです。このように起こる新しい出来事はリスクの存在が見えにくいので、回避する方法を知らぬ間にリスクに遭遇してしまうことが多々あります。痛める前に予防の方法を知っていたら……と悔やみました。子育て支援の一環で、肩こり・腰痛にならないための生活習慣や予防体操のレクチャーをお願いしたいものです。

ママが歩くことがままならなくても、抱っこや授乳を求める葵伊の待たはききません。家事と育児に休業日はないのね、と現実の厳しさをかみしめたものでした。軽いヘルニアでの引きこもり生活も1～2週間くらいでほぼ元の身体に戻り、久々に週末家族でお買い物に行くことにしました。主人は趣味がウィンドーショッピングというくらい、お買い物大好き人間です。しかし結婚してからは自分のためにお金を使うよりも、家庭のために使うことに喜びを感じるようになったようです。満足と感じる効用が変わってきたみたいです。

そして、葵伊が生まれてからはさらに彼のなかで変化が起きました。自分のために使うお金は、必要なものなのか、本当に欲しいものなのか、と厳しすぎる？ ジャッジのもとで固いお財布のひもは口を開けます。でも、葵伊のものとなると、たちまちお財布のひもは緩んでしまいます。自分以外の笑顔のために使うお金は自然と自分も笑顔になれてしまううえ、喜びは倍以上というおまけつき。不思議な

ものです。今回のお買い物も葵伊のもの中心で終了しました。

葵伊が誕生してたった4カ月なのに、パパとママに与える影響力の大きさは想像以上、です。しかし、世の中ではそんな子どもの数はなかなか増えません。2008年度の合計特殊出生率を見ると2007年度に比べ0.03上昇し、1.37（厚生労働省の人口動態統計より）になったとはいえ、少子化に歯止めがかかったわけではありません。子どもを生む・生まないという選択に教育費の問題や、自分の時間がなくなる、女性の場合はキャリアがストップする。こんな言葉に躊躇される夫婦も少なくないと思います。

確かに年々支出のシェアを占めていく教育費は、親の年収と教育の格差に比例するといわれる厄介な存在です。教育費は、子どもが生まれたとたんに支出時期が決まるので負担は免れませんが、事前の準備もしやすいでしょう。そうはいつても家計の大きな負担増とならないために今後は奨学金制度の拡充など、子育てにやさしい改革を財源の確保とともに期待したいところです。

自分の時間は子どもの誕生で確実に減りますが、その分時間の使い方が上手になります。また、今まで知らなかった世界が開け、新しい楽しみを発見できます。女性のキャリアストップは難しい問題であり、社会の仕組みが改善されないと解決できない部分が多々ありますが、自分自身をリセットするいい機会ととらえることもできるでしょう。子どもを出産したからといっていきなりプロの親になれるわけではなく、子どもの成長とともに、一步一步よちよち歩きから親になっていく気がします。子どもは、親の視野を広げ、成長させ、価値観を大きく変えてしまう不思議な存在といえそうです。

働くママの支援策!

赤堀 薫里【CFP®】

あせもが気になる蒸し暑い日が続くなか、ベランダでは「入谷朝顔まつり」からわが家の一員に加わった団十郎（朝顔）が茶色の花卉を広げ、真夏の太陽のもと、今日も元気に咲いています。

葵伊は今日も元気！ 寝返りをしたり足を持ち上げたりと、日々のトレーニングをかかしません。表情もさらに豊かになり、少しずつ彼の個性が顔をのぞかせています。離乳食も始まり、日々成長する息子に思わず目を細めてしまう私は親バカ？ ほかに子とわが子を比較することだけは絶対にやめよう！と心に決めた妊婦時代も、実際に本物のママになると勝手は違うようです。ママ友と情報交換しながら、ついつい成長度合いを比較している自分がいる……。いけませんね。子育ては長期投資！ 目先のことに気をとられずのんびり構えていかないと。

この時期になるとママ業も板につき、子育てを楽しむ余裕が少し生まれてきます。と同時に、俗世界のことが気になり始めてくるころでもあります。働いているときと子育てしているときとは流れる時間の速さが違うため、職場復帰は濁流にのまれてしまうのではないかという不安がつきまとうママも少なくないでしょう。子どもを預ける場所が確保できれば（これが大きなネックでもあるのですが……）、雇用形態の選択をしなくてはなりません。正社員として働いてセーフティネットを厚くするのか、自由な時間を優先してパートを選択するのか価値観が問われるところです。

正社員を選択した場合は、まず産前（42日）産後（56日）健康保険から出産のため仕事ができなとお給料がもらえないママへの所得保障という意味合いで、出産手当金が1日につき標準報酬日額の3分の2が支払われます。その後は雇用保険から育児中

の所得保障ということで育児休業基本給付金（休業前の賃金の3割相当額）が、子どもが1歳未満（保育所に入れないなど一定の場合は1歳半まで延長可能）まで支給されます。その後実際に職場へ復帰して半年たつと、さらに育児休業者職場復帰給付金が休業前の賃金の2割相当額一時金で支給されます。時差がありますが、育児中と職場復帰後合わせると休業前賃金の5割相当額が支給されることとなります（H22年4月からは休業中と復帰後に分けて支給している給付を統合し、全額休業期間中に支給）。

この雇用保険から支給される育児休業給付金は、パパママ問わず受給することができます。とはいえ、パパはなかなか仕事を休みにくく、子育てはママ一人の肩に重くのしかかる現実は否めません。子育てをしやすい環境を整えようと育児休業日数を増やしたり、子どもの看護休暇制度を拡充したりと法律も改正される方向に向かっていますが、社会の受け皿がまだまだ整っていないのが現状です。実際、パパに対して人見知りをはじめたなんて声も、ママ友から聞こえてきています。葵伊が大きくなるころには、働きすぎるパパが子育てにかかわり、育児に追われるママも社会とつながることができる、バランスのとれた生活が送れる社会が実現できるように、新米ママもできることから一つずつ取り組んでいきたいと思えます。

最後に、「新米ママ奮闘記」に長きにわたりお付き合いくださりありがとうございました。

